

横浜市 歴史博物館 NEWS 10 1999・12



◇わが横浜、わが博物館

◇これまでの5年間、これからの5年間

◇5周年によせて

◇企画展「中世の梵鐘—物部姓鑄物師の系譜と鑄造—」によせて

◇「文化財情報利用システム」リニューアル

◇〈知ってますか?〉ポスター掲示板

◇〈ちょいとミュージアムショップたいむ〉



わが横浜、わが博物館

館長 平野邦雄

横浜市歴史博物館は、平成七（一九九五）年一月三十一日に開館し、平成二二（二〇一〇）年の同月日で満五周年を迎える。時は二一世紀への入口にあたっており、あらたな飛躍が期待されるのである。

私は、かつて本館の『紀要』創刊号に、左のような趣旨をのべた。

本館は「横浜に生きた人々の生活の歴史」を基本テーマとするが、このテーマは歴史的フィールドとしての横浜の性格に深く根ざすもので、これを学問的に掘りおこすことが大切である。いうならば横浜は、古くから相模・武蔵の両国、さらに東海・東山の両道にまたがり、しかも関東の入口を占めるという重要な地域として、古代から近代にいたるまで政権の中枢に直結し、これと啓蒙の関係にあ



った。たとえば、古代の大和と京、中世の鎌倉、近世の江戸とひきつづき各政権の直轄的な領地が集中し、これに人と物資を供給し、輸送・交易の動脈としても政権を支えてきた。

しかし、反面では、あくまで政権の外周に位置して、これと一定の距離を保ち、そのフロンティアないしヒンターランドとして独自の領域を形成するという二面性を堅持してきたのである。

これは、近代以来の東京との関係においても変わりはない。

そして当然のことながら、このような領域で政治・経済・文化を担ったのは、天皇・貴族・將軍・大名・富裕層などの上層身分ではなく、中堅ないしロウワー・クラスの人々で、かれらの聡明・勤勉・文化的向上心によって歴史が保持されてきたのである。日本文化の発展が、この階層の能力の高さに負うところが大きいとすれば、横浜はまさにその典型的なフィールドであるといつてよい。開港後に、日本の「文明開化」の先端を行ったヨコハマの歴史として、このような長い歴史の蓄積にわれわれは注目しなければなら

さて、『紀要』にのべたこのような私の考えを確かめる機会には意外と早く訪れた。開館後の平成八（一九九六）年に、企画展「港北ニュータウン地域の暮らし」をひらく基礎となった、明治三六（一九〇三）年に神奈川県農会の刊行した『都筑郡中川村村是調査書』を読んだときである。

中川村とは、博物館のある都筑区中川中央そのところである。中川村も関東の他の農村とおなじく、決して地味は豊かではなく、村の半分は山林、耕地の三分の二は畑、水田は谷戸田とよばれる湿田が多く、二毛作はできない。毎日の食事は「米四分、麦四分、粟二分なるべし」とあるような質素な生活である。このようなどころで、村の近代化をめざすきわめて精度の高い調査書が作成され、統計を自由に駆使して、生産性の向上、土地・品種の改良、村有地の拡大の方途にまでおよび、このような「村是」こそが「国是」の基本であると明言するのである。

私は、平成九（一九九七）年六月九日の「神奈川新聞」に次のようにのべた。「このように春・夏・秋・冬、そして朝・昼・晩と、自然のサーキュレーション



ン（循環）を細かく生産にとり入れ、自然から最大限の恩恵をひき出そうとする知恵と力量は並大抵のものではない。それとともに山林の下草を刈り、枝をおとし、林相を維持し、竹林は冬にしつかり手入れをし、耕地に元肥を施し、深耕によって土地改良にはげむというように、自然界のリカバリー（再生）に余念がない。まことに勤勉というほかはない」と。先にのべた中堅ないしロウワー・クラスの人々の聡明・勤勉・文化的向上心とは、こういうことを指すのである。

今後とも、歴史博物館の取り上げるべき歴史の道程は長く、かつ多彩である。

これまでの五年間、

これから五年間

開館から五年間、当館の展示をはじめとするさまざまな活動は、「横浜に生きた人々の生活の歴史」を基本として進めてきました。まだ市民にも馴染みの薄い

開港期までの横浜地域の歴史を、庶民の暮らしに焦点をあてて掘り起こし、紹介するのが大きな特色となっています。その中心となる常設展示室では、円形の部屋の中に配置された通史展示室や歴史劇場、スタディサロンを使って、自由に観覧したり、休憩や調べものができます。また、資料を大きなガラスケースの中に

閉じ込めない展示方法も、地域の歴史に親しんでもらうための試みの一つです。そのほかに、企画展や歴史講座、体験学習などをおこなった考え方を伝えて



てきました。これにより、全国の数多い博物館の中にあって、独自の視点を持った地域博物館として注目されるようになる

りました。しかしその一方で、年々来館する方が減少し続けるという、厳しい現実にも直面しています。

さて、開館から一〇年目は常設展示の内容の見直し、用具や装置の更新、設備機器の補修改善など、一つの区切りの時期とされています。それに向けてこれらの五年間をどうしていくか、なかなか見通しの立てにくい時勢ですが、これまでの出来事を振り返ると、次のような道筋が見えてきます。前に述べた厳しい状況への対応も、この中で考えていくこととなります。

一 高齢者にやさしく

平成一〇年一〇月から同一一年七月までのアンケート調査によると、来館者の年齢は六〇歳代二八・七％、七〇歳代二一・％となっています。実際に、この年代の方々が展示を熱心にご覧になったり、図書閲覧室で調べものをしたりする姿をよく見かけます。また専門的な知識も豊富で、地域の情報にも通じており、私たちが教えられることも少なくありません。この年齢層の方が、ゆつたりと過ごせる展示環境と、充実感が得られる講座や体験活動をつくることが重要です。これは、高齢化を迎える団塊の世代への備えでも

あります。

二 子供に「ふるさと」を

四月から六月の間は、市内外の小学校団体の見学でにぎわいます。平成一一年は二一七校で、横浜市内の小学校の六一％がきています。メモをとったり、課題を調べたりするグループがある一方、パソコンで遊んでいるだけのケースも見られます。せっかくの機会を無駄にせず、「ふるさと」の成り立ちに眼を向けさせたいものです。それに、博物館などを使う際の、マナーや方法を会得してもらうことも大切です。そのための学習室と、支援に当たる専門職員（エデュケーター）の配置が必要です。新しい世紀をにない、世界と交わる子供たちの基本を培う役割を果たします。

三 本物をじっくりと

基本である「人々の生活の歴史」の中



身をさらに充実させ、表現方法の工夫に努めることが大切です。たとえば、資料収集の重点の一つである、東海道や宿場に関する絵画や文書を集的に展示したり、各地の博物館が持っている資料と交換展示をして、実物をじっくりと味わうことができるコーナーを設けることです。これは、全国を対象とした巡回展を主催するための基盤にもなります。

四 遺跡での体感を

野外施設である大塚・歳勝土遺跡公園を、古代の環境と暮らしが体感できる場所とすることです。現在のボランティアによる案内ガイドに加えて、各地の区や学校・団体と連携して、多彩な行事を開くことが考えられます。ここでは文化財の大切さを知り、清掃や草刈など保護のための活動もしてもらいます。それに、身体が不自由な方や障害のある方が参加し、館内とは違った体験をしてもらえるようにします。このためには、遺跡の安全管理と指導のための体制を整えることが必要です。

これからの五年間は、「子供から親へ」・「市民から市外の方へ」といったように、博物館を取り巻く人の輪を広げるためのポイントを見つけて、育てることが重要となります。それとともに、基本の考え方を充実させるための力と、その成果を分かりやすく紹介するための技をみがくことが求められてきます。

(学芸課長 前沢和之)

5周年によせて



作家
山崎 洋子

1947年京都府生まれ。コピーライター、童話作家などを経て小説家に。「花園の迷宮」で第32回江戸川乱歩賞を受賞。近著に「天使はブルースを歌う」(毎日新聞社)がある。

開港以前にも横浜はあった——そんなあたりまえのことを、この歴史博物館ができてからしみじみ考えるようになりました。

私の住まいは緑区です。このあたりは東京のベッドタウンとして開発されたところも多く、新しい町であるかのように錯覚しがちです。が、ふと周りを見回してみれば、城跡があり、明治以前の昔を

忍ばせる地名がたくさんあり、当時の人々が拝んだであろう庚申塚が点在していることに気づきます。

開港以後における中区周辺の歴史があまりに華々しく有名なので、こうした開港以前の歴史はなにかと忘れられがちでした。かくいう私自身も、我家周辺の古地名の由来だけでも調べたいと思いつつ、きっかけがなくてまだ手をつけていません。でもこつこつと古代、中世、江戸期などの横浜を掘り起こし、紹介してくれる横浜歴史博物館こそ、そのきっかけを与えてくれるはず。展示だけではなく、体験学習・歴史講座などを通じて、横浜の奥深さをまず地元の人たちが知り、全国に発信したいものです。



川崎市市民ミュージアム館長
加藤 有次

1932年東京都生まれ。國學院大學教授。博物学の理論および実践的方法論を追求するとともに、幅広く生涯学習活動にも活躍される。「うどん博士」としても知られる。主要著書に『博物館学総論』『博物館学序論』『博物館ハンドブック』など。

開館五周年を迎えられ衷心よりお祝い申し上げます。横浜市が博物館を建設するにあたり数度相談を受けた私にとって、立派な横浜市歴史博物館が開館し、市民はもとより市外の人々からも注目的になりましたことは大変嬉しく思います。当時は整備中であつた国指定史跡「大塚・歳勝土遺跡」に隣接した立地条件は歴史博物館に相応しく、現在では野

外博物館として併設運営されていることをみると、これが本来の生きた歴史博物館の環境づくりではないかと改めて思います。

また、展示活動はもとより、メニュー豊かな講座活動や体験学習活動が活発に推進されてきた様子は、平野館長先生はじめ館の学芸員・職員の方々の目に見えない日夜のご努力の賜物と存じます。

地域博物館は、地域住民が、永い歴史の中、人々が地域の自然的風土を培って、暮らしという歴史的風土を築いてきた様子を、博物館で学び、未来を創造させるための生涯学習の殿堂であると思います。この歴史博物館が生涯学習の殿堂となるべく、開館以来の尊い実績を活かしてますます大成されますことを期待いたします。



横浜市教育長
太田 昇

横浜市歴史博物館は、開館以来、多くの市民の方々に親しまれ利用されてきました。大変ありがたいことと思います。

また、職員の努力により、各種の魅力ある企画展はじめ、博物館運営にいろいろと工夫をしていただけてますことを嬉しく思っています。

さて、当博物館は今までも学校との連携を深め、多くの児童・生徒に学習の場を提供してきましたが、これからもその初心を基本にして運営されることを期待



学生 後藤憲貞

博物館最寄り駅の「センター北駅」を乗換え駅として通学。好きな時代は戦国時代。

この博物館が開館して五年がたとうとしています。

五年前、私は中学校の部活の帰り道に、ほんの暇つぶし程度の気持ちで博物館へと足を進めました。

歴史の教科書で見えるような物から、ある特定の地域の伝統行事に使用する物まで、さまざまな物が私の目を引きました。つぶそうと思った時間はあっという間に過ぎていってしまいました。無論、そ



遺跡公園ガイドボランティア 増田美知子

遺跡公園のすぐ近所に住み、博物館開館以来、歴史講座などを受講し、博物館を大いに活用してきた。99年3月よりガイドボランティア活動を開始。

ガイドボランティアをはじめて八か月。春には遠足に来た多くの小学生を対象に、普段は一人で、また数人でいらつした方々に遺跡の解説をさせていただいております。

遺跡公園に上がっていくと、近隣の方々など多くの人が公園を楽しんでいる

んな少しの時間で満足するまでの見学ができるわけはなく、近いうちに再び見学しに行こうという気持ちになっていました。

以来、高校生・大学生になってもこの博物館へよく足を運ぶようになりました。もともと歴史の勉強はきらいではありましたが、ここへ来るようになってからは、それまでとは違った歴史のおもしろさを感じるようになっていきました。

もしこの博物館に来ることがなかったら、私は歴史を単なる受験の道具ぐらいにしか考えなかったと思います。

それまでとは別のおもしろさを教えてくれる、その意味で博物館という空間は私たちの生活の中に欠かせないものではないかと思っています。

姿が見受けられます。かつてこの辺りは山の中に畑が点在し、太い雑木や竹林などがあり、多くの生き物の住処でした。そのことを思わせるかのように、番の雉が時々やってくるのがあり、心を打たれていました。いつの間にか、雉は一羽で来るようになり、この春を最後にみかけなくなりました。新しく生まれ変わった、広々としたこの公園で、自然に住み着いた動物との共存ができるようになればなどと思ったりしております。

二千年前にここに住んでいた人々の跡をしのばせる、環濠集落や方形周溝墓などの話をしながら、私たちボランティアガイドがここについて不自然ではないことを感じます。開館五周年を迎える博物館や遺跡公園をより楽しむための一つとして、ボランティアガイドを利用していただければ、ありがたく思います。これからも多くの方々と共に、この場所を見守り、育てていきたいと考えております。



しています。それは、二一世紀を生きしていく子どもたちには、社会の変化に柔軟に対応できるたくましさ、自ら学び、考え、よりよく問題を解決する資質や能力を育むことが、より以上に求められているからです。そのため、各学校では創造性に富み、たくましく個性豊かな子どもを育てる教育に努めております。博物館は、子どもたちの校外における学習の場として、大切な役割を担っておりますので、今後とも、学校との連携を強めて、子どもたちの学習に関してより一層の支援、協力をしたいと考えています。

さらには、生涯学習にかかわる支援についてです。精神的・文化的豊かさを求めて生涯にわたって学習する人々はさらに増加しています。さまざまな学習ニーズに応える情報や場の提供など、高度化する人々の学習活動に的確に答えてもらいたいと考えていますので、横浜市における生涯学習支援の拠点の一つとして重要な役割を果たすことを期待しています。

もちろん、子どもたちから高齢者まで、世代を越え一緒に学習ができ、広く市民に親しまれる開かれた博物館として、さらに発展していくことを望んでいます。

「中世の梵鐘——物部姓鑄物師の系譜と鑄造——」によせて

「柿くへば鐘が鳴るなり法隆寺」の句は、そのなかに鐘の音が詠み込まれた名句として知られていますが、私たちの住む横浜にも古くから和歌に歌われるような梵鐘があります。

「いと、しく浦の眺ぞおしまる、その名にかなふいりあひの鐘」と歌われた梵鐘です。これは江戸時代のはじめの延宝八（一六八〇）年に自任軒一器という人が、金沢八景の名勝を詠んだなかの「称名晩鐘」という歌です。金沢区の称名寺にあるこの鐘は、鎌倉時代の正安三（一二三〇）年に金沢頭時が改鑄したものです。もともとは頭時の父実時が文永六（一二六九）年に鑄造させたのですが、



慈光寺梵鐘（埼玉・慈光寺蔵）

地震により壊れたための鑄直しでした。横浜には称名寺の鐘のように、鎌倉時代に鑄造された梵鐘がほかに二口残されています。それは永仁六（一二九八）年に住持了欽が人々から資金を集め鑄造した磯子区の東漸寺の鐘、正中二（一二三二）年に住持道周と檀那広鑑が力を合わせて鑄造した瀬谷区の妙光寺の鐘（恩田万年寺旧鐘）です。

この三口の梵鐘には、いくつか共通したところがあります。その一つは、東漸寺の鐘が「大工大和権守物部国光」、称名寺の鐘が「大工大和権守物部国光・山城権守同依光」、妙光寺の鐘が「大工物部守光」によって鑄造されていることです。つまりこれらの梵鐘を鑄造したのは、いずれも物部姓の鑄物師集団であったということです。では、この鑄物師集団とはどのような人々だったのでしょうか。

物部姓鑄物師は、河内国丹南郡、現在の大府南河内郡美原町辺りを中心とする地域を本拠としていた集団であったといわれています。彼らは鎌倉時

代の建長四（一二五二）年に、現在鎌倉大仏として有名な高德院の銅造阿弥陀如来坐像の鑄造のため、執権北条氏により招かれやってきました。この時に、丹治・広階・大中臣姓という、当時河内国に本拠地を置いた鑄物師も招かれています。彼らこそ朝廷の用に奉仕するかわりに、税の免除や全国往来の自由など、いくつもの特権を認められた有力な鑄物師集団だったのです。

大仏の鑄造が終わると、丹治姓鑄物師は河内国に帰りますが、広階・大中臣姓鑄物師は上総国（千葉県）方面に移住して活動を続けます。これに対して、物部姓鑄物師は相模国北西部の毛利荘内（厚木市付近）に移住・定着したと考えられ、需要の増大した鎌倉を中心に相模・武蔵国の寺院の梵鐘を鑄造していきます。

物部姓鑄物師は、寛元三（一二四五）年に物部重光が武蔵国慈光寺（埼玉県比企郡都幾川村）の梵鐘鑄造を手がけて以来、季重・国光・依光・守光・道光・信光らを輩出し、南北朝時代の延文元（一三五六）年に相模国清浄光寺（藤沢市）の鐘を鑄造した光連を最後に名前が見えなくなりました。この百十余年の間、彼らの鑄造した梵鐘は二〇口（現存しないものも含む）を数えます。中でも、国光は

特に有名で、文永の炎上以来修復されることがなかった京都の東寺の五重塔の相輪を、物部姓鑄物師集団を率いて鑄造完成させています。このうち、国光は千葉県館山市にある小網寺、神奈川県海老名市にある国分寺、横浜市の東漸寺、横浜市の称名寺の鐘、鎌倉市にある円覚寺の鐘を次々に鑄造していきます。

彼らの鑄造する鐘は、執権北条氏の一族や鎌倉有力御家人を大檀那とする寺院に集中しています。このことは、鎌倉幕府との深い関係を無くしては語れないことを示しています。ここに物部姓鑄物師の特色を読み取ることができ、また、その盛衰の理由もわかってきます。

梵鐘は、仏教伝来とともに日本にもたらされたものと考えられています。そのうち奈良・平安時代を経て梵音具として改良が進められ、鎌倉時代にいたって完成期をむかえます。物部姓の鑄物師たちも、こうした時代の担い手として重要な働きをしたのです。梵鐘鑄造の世界において、「西の丹治」に対して「東の物部」と称讃された、鎌倉時代の鑄物師たちが精根をこめて鑄造した数々の梵鐘をぜひ御覧ください。

会期 一月二九日（土）～二月二七日（日）

（遠藤 廣昭）

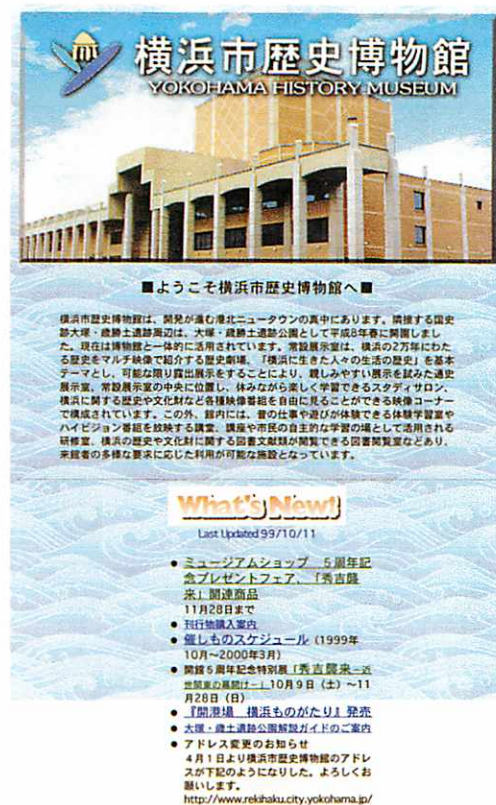
「文化財情報利用システム」リニューアル

横浜市歴史博物館では、収蔵資料や地域の文化財に関する情報の管理や公開のため、「文化財情報利用システム」というコンピュータ・システムが稼働しています。

システムの構成は情報系システムとA/V（オーディオ・ビジュアル）系システムの二つからなり、情報系では収蔵資料や地域文化財資料の情報を、文字や画像を媒体としてデータベース検索やクイズ形式でわかりやすく公開しています。A/V系では市内各区の歴史や指定文化財、

民俗芸能や行事の紹介、および日本の歴史に関するビデオを公開しており、毎年番組数を充実させてきました。

この「文化財情報利用システム」は一九九五年一月の開館以来、多くの方にご利用いただいてきましたが、五年目に入った今年四月にリニューアルを果たしました。これまでのシステムではデータ管理にオフコン（オフィス・コンピュータ）という比較的大型の機械を使っていたが、リニューアルにあたりパソコンをベースとしてシステムの軽量化をはかりました。



横浜市歴史博物館 YOKOHAMA HISTORY MUSEUM

■ようこそ横浜市歴史博物館へ■

横浜市歴史博物館は、開発が進む港北ニュータウンの真中にあります。隣接する国史跡大塚・磯原土遺跡周辺は、大塚・磯原土遺跡公園として平成5年春に開園しました。現在は博物館と一体的に活用されています。常設展示室は、横浜の2万年にわたる歴史をマルチ映像で紹介する歴史劇場、「横浜に生きた人々の生活の歴史」を基本テーマとし、可能な限り演出展示をすることにより、観しやすい展示を試みた通史展示室、常設展示室の中央に位置し、休みの日や来館者が気軽に学べるスタジオコーナー、横浜に関する歴史や文化財など各種映像番組を自由に見ることが出来る映像コーナーで構成されています。この外、館内には、豊の仕事を遊びが体験できる体験学習室やハイビジョン番組を放映する講堂。横浜や市民の自主的な学習の場として活用される研修室、横浜の歴史や文化財に関する図書文庫が閲覧できる図書閲覧室などあり、来館者の多様な要求に応じた利用が可能な施設となっています。

What's New!

Last Updated 99/10/11

- ミュージアムショップ 5周年記念プレゼントフェア、「秀吉殿来」関連商品 11月28日まで
- 旅行地図入庫中
- 館しものスケジュール (1999年 10月～2000年3月)
- 開館5周年記念特別展「秀吉殿来」～近世開港の歴史～ 10月9日(土)～11月28日(日)
- 「開港場 横浜ものがたり」発売
- 大塚・磯原土遺跡公園施設ガイドのご案内
- アドレス変更のお知らせ 4月1日より横浜市歴史博物館のアドレスが下記のようにになりました。よろしくお願ひします。

<http://www.rekihaku.city.yokohama.jp/>

今回のリニューアルでは、大きな課題の一つとして情報公開機能の強化・充実があります。これまでのシステムでも、埋蔵文化財センターなど類似機関と

の間を専用線で結ぶネットワーク機能をもっていました。が、新システムではインターネット技術を利用した、より広範囲にわたる情報の発信・受信をめざしています。Webサーバと呼ばれる通信管理用のコンピュータを設置し、ホームページを開設して博物館の行事や施設、ミュージアムショップの商品情報など事業全般に関する情報を掲載しています。またホームページから収蔵資料（一般公開資料）や図書資料のデータベースも検索することが出来ます。収蔵資料データベースについては、文化庁が主催する全国の美術館・博物館の資料情報索引「文化財共通索引」への参加も視野に入れています。自宅や学校、オフィスのパソコンから、横浜市歴史博物館のホームページにアクセスしてみてください。

もちろん来館者の方にも、これまでどおりエントランスホールやスタディサロン、映像コーナー、図書室で文化財簡易検索やクイズ形式のQ&A、またビデオ番組や図書資料検索システムをご利用いただくことができます。ゲーム感覚で楽しみな横浜の歴史や文化財についての知識を深めるQ&Aシステムでは、今回新しいキャラクターが登場しました。時をつかさどるトキカモメ、時空船へと



* 横浜市歴史博物館ホームページのアドレスは、
<http://www.rekihaku.city.yokohama.jp/>

いざなうロボット、歴史ツアーガイドのハニワの三キャラクターが、時空港Ⅱ横浜タイムポートから時間旅行へご案内します。全問正解者には、各コースごとに「タイムパトロール任命証」「時空船パイロットライセンス」「歴史ツアー参加証」の認定証が交付されます。問題のバリエーションも増強し、より手応えのある内容となつてみなさまの挑戦をお待ちしています。

新しくなった文化財情報利用システムを、どうぞよろしくおねがいいたします。

(柳沼 千枝)

(1999年10月1日～1999年11月30日)

- 10月9日 開館5周年記念特別展「秀吉襲来ー近世関東の幕開けー」開催(11月28日まで)
- 10月9日 開館5周年記念イベント「写真・ポスターでふりかえる5年のあゆみ」、「ミュージアムショップ プレゼントフェア」、「博物館茶会」開催
- 10月9・10日 体験学習「土鈴づくり」
- 10月15日 歴史講座「古文書解説教室」(12月17日まで連続10回)
- 10月28日 <ふるさと横浜探検3>よこはま事はじめ関内地区
- 10月31日 特別展関連講演会 峰岸純夫「関東戦国の終焉」
- 11月3・7日 都筑・青葉区民まつり出展参加
- 11月13・14日 体験学習「まがたまづくり」
- 11月21日 特別展関連研究講座 曾根勇二「東国侵攻における秀吉の奉行人たち」
- 11月25日 <ふるさと横浜探検4>国史跡名寺境内と金沢周辺の歴史散歩

横浜市歴史博物館 ● 日誌 ●

ちよいと

ミュージアムショップたいむ
Museum Shop Time

TVゲームがなかった頃、室内ゲームといえばトランプ、将棋、おはじき、双六などでした。中でも双六は江戸時代には庶民に人気の遊び道具として、さまざまなものが作られました。

このたびミュージアムショップでは、以前にご好評いただいた「東海道遊歴双六」につづく第二弾として、当館所蔵の「東海道木曾路新版振分道中雙六」を復刻しました(このニュースの表紙にも使われています)。これは江戸時代の後期に数多く作られた「道中双六」のひとつで、作者は「東海道五十三次」などでおなじみの歌川広重です。この双六の面白いところは、振り出しの江戸日本橋でサイコロを振り、丁(偶数)が出たら東海道、半(奇数)が出たら木曾路(中山道)を通過して京都にゴールするという、2つのコースが用意されているところです。各宿場では名所・名物が絵と文で紹介されています。今回は当時の浮世絵版画に描かれている、街道の旅人たちの姿をコマにしてみました。当時の街道の様子を想像しながら、みなさんで楽しんでみてはいかがでしょうか。



東海道木曾路新版振分道中雙六
700円(税別)

INFORMATION

今後の企画展のお知らせ

◆開館5周年記念「館蔵品の紹介展示」

12月14日(火)～1月9日(日)

未公開資料、館蔵資料の特色を示す品々を展示します。

◆企画展 中世の梵鐘ー物部姓鋳師の系譜と鋳造ー

1月29日(土)～2月27日(日)

◆企画展 近世の都筑(仮題)

3月25日(土)～5月14日(日)

江戸時代の都筑区とその周辺地域の状況を紹介します。

◆開館5周年記念特別講演会のお知らせ

「木の文化ー出雲大社と伊勢神宮を中心にー」2月6日(日)13:30～
平野邦雄(当館館長・東京女子大学名誉教授)

参加料は無料。定員は170名です。

申込方法・往復ハガキに住所・氏名・年齢・電話番号・「特別講演会」と記入の上、博物館までお送りください。ハガキ1枚につき1名です。希望者が多い場合は抽選となります。締切・1月10日(月・祝)



???????知ってますか???????

ーポスター掲示板ー

博物館には、来館者の方々にさまざまな情報を知っていただけるよう、ポスター掲示板が設けられています。掲示板は2階にあり、階段とスロープのあいだに位置しています。

掲示可能な枚数としてはB2大のポスターなら40枚程度は可能です。当館の行事の案内、他館から送られてくる催しもの案内などを掲示しています。

当館の情報として体験学習、各講座のスケジュールや都筑民家園の行事などを知ることができます。他館の展示情報・講演会等のポスターはおおまかに掲示場所が分かれており、向かって左側から、神奈川県、関東地方、その他の地域という順になっています。毎日、たくさんの



ポスターが送られてきますが、おもに歴史関係のものが掲示されることになります。

張り替え作業は毎週火曜日の開館前におこなわれます。この時張りきれなかったもの、会期が終了したもの等については図書閲覧室に保管しています。

このように、ポスター掲示板は、いつも新しい情報をみなさまにご覧いただけるようにしています。

横浜市歴史博物館および 大塚・歳勝土遺跡公園の利用案内

●開館時間

午前9時から午後5時まで(ただし、入館は午後4時30分まで)
大塚遺跡、都筑民家園を除く公園部分は24時間オープン

●休館日

月曜日、祝日の翌日、年末年始
そのほか展示替えなどのため、臨時に休館することがあります。

●常設展観覧料

一般 400円 高校生・大学生 200円 小学生・中学生 100円

◆特別展・企画展の観覧料は、別に定めます。

◆第2・第4土曜日は、小・中・高校生は無料です。

◆「長寿のしおり」「敬老特別乗車証」「愛の手帳(療育手帳)」「身体障害者手帳」「障害者手帳」をお持ちの方は無料です。

●インターネットホームページを開設しています。ご利用下さい。
<http://www.rekihaku.city.yokohama.jp/>

編集後記

博物館ニュース10号を開館5周年記念号として発行いたしました。多方面の方々から、あたたかい期待のこもった原稿をよせていただきました。お客様からも「もう5年なんですね」と声をかけていただくことがあります。みなさまの期待に応え、次のステップへ踏み出していきたいと思います。

